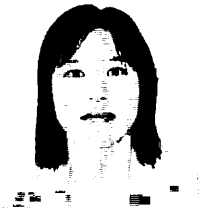
〈小学校　教育相談〉



# 互いに認め合う学級集団づくりの工夫
## ―教科・領域の指導にＳＧＥやＳＳＴの活用を通して―

豊見城市立長嶺小学校教諭　　知念　香

## 1　研究のテーマについて

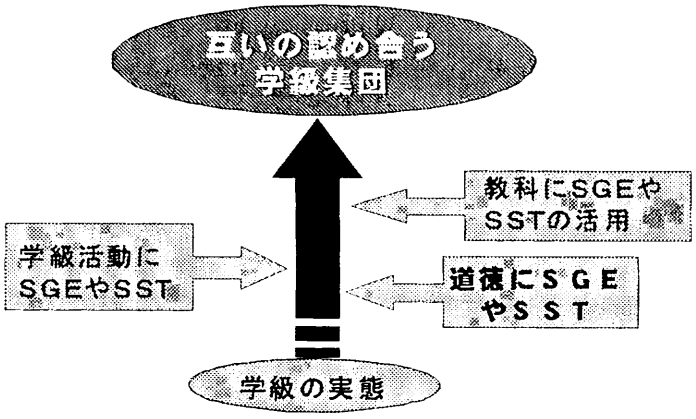
「学校は楽しいですか」のアンケートに 94 %の児童が楽しいと答えていた。確かに現在受け持っている児童は昨年受け持った児童と比べても，大きなトラブルも少なく落ち着いた学級に見えた。しかし，教育相談に向けてのＱ－Ｕアンケートの結果を見て愕然とした。いつも楽しそうに見える児童なのに承認得点（他者から認められたと感じる得点）が低い児童が学級に半分以上いたからだ。実態把握の甘さを感じ反省させられた。

各々の児童があたたかな人間関係が築けるように，互いに認め合うことのできる学級集団づくりを目指して本研究をスタートすることにした。

## 2　研究の特徴

「 互いに認め合う学級集団づくり」をするために，教科・領域の指導にＳＧＥ(構成的グループエンカウンター）やＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）を活用してその実践の有効性を確認する。

互いに認め合う学級集団づくりの構想図




**（領域に取り入れる）**
☆ ＳＧＥやＳＳＴのプログラムを実施
（計７回）

**（教科に取り入れる）**
☆教科の目標をおさえながら効果的にＳＧＥやＳＳＴの手法を活用する
（国語，図工）

## 3　指導の実際

学級活動「氷鬼」エンカウンター（信頼体験）

国語「もしもの国を出し合おう」ブレーンストーミング

## 4　研究の成果

ＳＧＥやＳＳＴを教科・領域の指導に取り入れることで，受容的な雰囲気の中で学習が進み，自他理解を深めることができた。その結果，認め合いが積極的に行われる学級集団に変わり始めてきた。

＜小学校　教育相談＞

# 互いに認め合う学級集団づくりの工夫
## ～教科・領域の指導にＳＧＥやＳＳＴの活用を通して～

豊見城市立長嶺小学校教諭　　知念　香

## Ⅰ　テーマ設定の理由

**今日的な課題より**

社会環境の急激な変化

青少年を巻き込んだ悲しい事件が後を絶たない昨今，学校現場では不登校やいじめ，学校生活に上手く適応できない児童が増加傾向にある。これらの要因として，児童を取り巻く社会環境の急激な変化があげられる。核家族化，少子化，情報化，遊び文化の変化（テレビゲーム等）などにより，児童は生活の中でよりよい人間関係を築くことが難しくなっている。遊びや関わり合いの中で自然に学ぶことができた対人関係のスキルやコミュニケーション能力を十分学ぶことができなくなっているのである。平成19年度沖縄県学力向上主要施策「夢・にぬふぁ星プランⅡ」においても人間関係づくりの力をはぐくむ取組の充実が示され，児童の人間関係の未熟さは今日的な社会問題となり，心の教育の充実が叫ばれている。家庭や地域での人間関係体験が減少した社会環境において，多様な個性の集まる学校・学級で，協力的な活動や学習を数多く体験させ，互いに認め合う受容的な人間関係を経験させることが重要であると考える。

人間関係体験の減少

**児童の実態・これまでの実践より**

本学級は，トラブルが少なくまとまっているように見える。しかし，物事をマイナス思考で捉え自己表現ができずに困っている児童，グループ活動が苦手な児童等，個々に目を向けると快適に学校生活を過ごしているとは言い難い。５月に実施したＱ－Ｕアンケートの結果を見ると承認得点の低い群に属する児童が57％とおり，他者から認めらた経験の少ない児童や，仮に認められたとしてもそのことに実感を持てないでいる児童が多いことがわかった。その傾向は，今学級のみならずこれまでに関わった児童の実態を振り返っても同様なことが見られた。これまでの実践を振りかえると，昼の会に互いに認め合う場として「すてきなところ探し」を実践してきたが，特定の児童のみが良いところを探すだけのワンパターンの活動で互いのよさに気づき認め合う活動には至らなかった。また，学習の場でグループ活動を取り入れた学び合う活動を実践してきが，安心して発言でき，児童が互いの意見を受け入れる受容的・共感的な学級集団づくりができなかった。その原因は，集団や個に応じた適切な支援ができずにいたからだと考える。

承認得点の低い児童57%（全国41%）

**本研究において**

そこで本研究では，教科・領域の指導に集団活動の場をより多く取り入れ，互いに認め合う学級集団づくりを行う。その方法として学級活動や道徳だけでなく教科学習の中にも構成的グループエンカウンター(ＳＧＥ)やソーシャルスキルトレーニング(ＳＳＴ)の手法を取り入れていく。そうすることで，集団活動を通して，児童の心に仲間意識がめばえ，互いに認め合うよりよい人間関係が学級の中に築けると考えるからである。そこで，まず学級活動や道徳の授業で，ＳＳＴを通して集団生活のマナーや人間関係づくりのルール(スキル)を演習する。次に，ＳＧＥで集団体験の喜びや温かな交流を味わう中で児童相互のリレーション(受容的な人間関係)づくりの促進を図り，学級集団の土台作りを行っていきたい。さらに教科の学習指導にＳＧＥやＳＳＴを活用することで，身についたスキルやリレーションが高められ，互いに認め合う学級集団づくりが期待できる。

ＳＧＥやＳＳＴの活用

以上のことからＳＧＥやＳＳＴの手法を意図的・計画的に教科・領域の指導に活用すれば、互いに認め合う学級集団づくりができるのではないかと考え本テーマを設定した。

## Ⅱ　研究の目的

「互いに認め合う学級集団づくり」をするために、以下に示す研究の視点１，２を核にしたＳＧＥやＳＳＴの活用を通してその実践の有効性を確認する。

## Ⅲ　研究の視点

**１　人間関係づくりのルールやリレーションを確立するために，学級活動や道徳の授業，朝の会で，意図的・計画的にSGEやSSTのプログラムを実施**

**２　互いに認め合う学級集団づくりをするために，１での実践をもとにして，教科指導の中にSGEやSSTの手法を活用した学習指導の工夫**

検証計画

| 対象児童　３年２組（３７名） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 検証項目 | 検証の場面 | 検証の観点 | 検証の方法 |
| 検証授業 | 視点１ | ＳＧＥやＳＳＴを取り入れた学級活動，道徳（授業７回） | (1) 人間関係づくりのスキルが身についたか。<br>(2) 児童間にリレーションが確立されたか。 | ・ソーシャルスキル尺度<br>・Ｑ－Ｕアンケート<br>・振り返りカード（自己評価） |
| | 視点２ | ＳＧＥやＳＳＴを活用した教科学習（授業５回） | 互いに認め合う学級集団づくりができたか。<br>①友だちの考えや意見を聞こうとすることができたか。<br>②互いのよさを受け入れることができたか。<br>③安心して意見を言うことができたか。 | ・振り返りカード（自己評価）<br>・にこにこアンケート<br>・児童の感想　等 |
| 前後の調査 | | 実施時期<br>事前アンケート（１０月）と事後アンケート（２月） | | ・Ｑ－Ｕアンケート<br>・ソーシャルスキル尺度 |
| まとめ | | 教科・領域の指導にＳＧＥやＳＳＴを活用することは、互いに認め合う学級集団づくりに有効であったか。 | | ・上記の結果 |

## Ⅳ　研究内容

### １　互いに認め合う学級集団について

**(1) 互いに認め合う学級とは**

学級は個と個が互いに影響し合う場所である。個と集団の関わりは，個人の学習や生活への意欲に大きく関係してくる。学級の中で他の児童から自分を受け入れてもらった経験が，自己理解・他者理解を深め，自分への自信にもつながり自己肯定感が生まれてくる。児童が互いに理解し認め合い，ともに成長できる集団が理想の学級集団である。「互いに認め合う学級」を次のように捉え研究を進めていく。

| | | |
|---|---|---|
| ・聞く | ①友だちの考えや意見を聞こうとする。(考え方や行動の相違に気づく) | 認知 |
| ・受け入れる | ②互いのよさや違いを受け入れようとする。 | 受容・承認 |
| ・自分らしさを発揮 | ③安心して自分らしさを発揮しようとする。 | 尊重 |

**(2) 学級集団づくりについて**

① 集団活動の意義とよさ

人間関係は人間同士の交流の中でしか培うことができない。学校では，各々の児童の自己実現を助ける場として学級集団があり，集団活動を通して互いに励まし合い，支え合いともに認め合う体験を繰り返すことができる。

集団の機能や特性は，相互に影響を与え合う力，相互作用が期待できる点である。河村氏は学級集団の中で生活し，活動する中で児童は５つの影響を受けると著書に記している。

相互に影響を与える

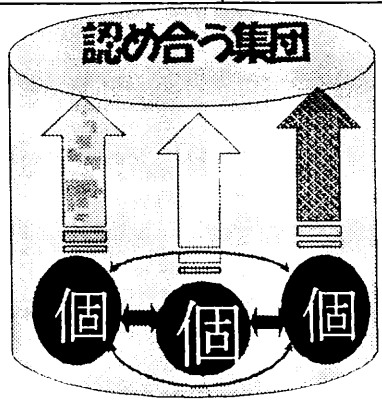



図１　学級集団構成図

○集団体験から，自分のいろいろな面を体感する。
○教師や他児童の素直な指摘から，自分の行動や感情を修正することができる。
○児童間の相互作用の中で，新しい試みに向かう意欲が喚起される。
○他児童がよりよい方向に変化するのを見て，新しい試みをする意義と方法を知る。
○協同の経験が，個人の変容の試みを促進させる。

**個の変容の促進**

集団活動のよさは，自他に対する新しい発見・気づき、学び等の個の変容の促進が期待できる点にある。集団の力が後押しすることで、児童は社会性を身につけ、自己実現に向けての意欲が増してくる。図１は、学級内で個が相互によい影響を与え合いながら、認め合う集団を目指して学級と個がそれぞれ高まっていく様子を表している。

② 互いに認め合う学級集団づくりの工夫

**集団活動のよさを学ぶ**

**土台づくり**

**教科への活用**

児童が互いに認め合う関係を育むためには，学校生活の基盤となる学級集団を中心に児童一人一人に友達と関わることの楽しさ，集団で物事を取り組むことのおもしろさなどを味わわせ，集団活動のよさを体験的に学ばせていくことが大切である。そのために，集団活動の場を教科・領域の指導により多く取り入れていく。まず，ルールや人間関係づくりのスキルを高め，児童間のリレーションを深めるためにＳＧＥやＳＳＴを学級活動や道徳の授業に取り入れ学級集団の土台づくりをする。さらに，教科指導の中に効果的にＳＧＥやＳＳＴの要素を活用することで，相互交流の場面が増え，児童が互いの考えを聞き合い，よさや違いを受け入れ，自分らしさを発揮できる互いに認め合う学級集団のづくりを図っていきたい。

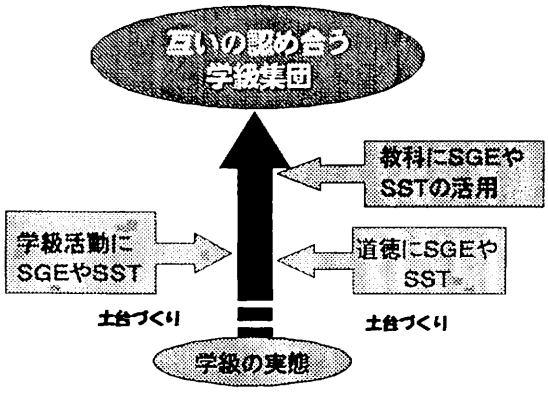


図２　認め合う学級集団づくりの構想図

## ２　ＳＧＥやＳＳＴの活用について

### (1) ＳＧＥ(構成的グループエンカウンター)について

① ＳＧＥとは

**あたたかな人間関係**

ＳＧＥとは，集中的グループ体験のことで，集団活動の中で感情の交流を図り，教師と児童，児童相互のあたたな人間関係を育む手法である。心と心がふれ合う体験を通して，人とかかわる喜び，集団活動の喜びを体感することができる。ねらいに即して６種類(自己理解・他者理解・自己受容・自己表現・信頼体験・感受性の促進）のエクササイズがある。

② ＳＧＥの基本的な展開

図３は，ＳＧＥの一連の流れを示している。エクササイズとシェアリングはＳＧＥの二本の柱である。エクササイズとは，教師の考えるねらいを達成するために用意された課題のことで，ゲーム的な要素があり，児童が楽しんで活動することができる。シェアリングとは，エクササイズで体験したことを振り返り，級友と分かち合うことで，体験を経験にすることができる自己開示の場である。

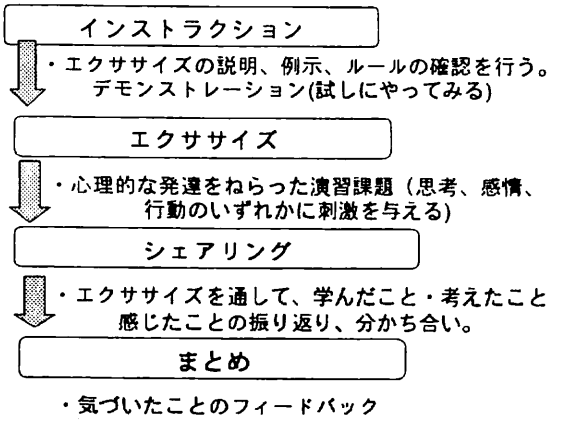


図３　ＳＧＥの基本的な展開

(2) ＳＳＴ(ソーシャルスキルトレーニング)について

① ソーシャルスキルとは

良好な人間関係の技術

ソーシャルスキルとは，良好な人間関係をつくり保つための，知識と具体的な技術やコツのことである。児童は学校や学級のルールに従って集団活動を送っており，対人関係におけるマナーや集団生活のルールは人間関係を形成・維持していくためにも必要である。基本的なスキルにあいさつ、上手な聴き方、仲間の誘い方、あたたかい言葉かけ等 12 種類ある。本来は家族や友達との日常的な交わりの中で，自然に身につけていく技術であるが，社会体験の乏しい現代の児童にとって，行動様式を学級の中でトレーニングすることの意義は大きい。

② ＳＳＴ(ソーシャルスキルトレーニング)の基本的な展開

図４は，ＳＳＴの一連の流れである。リハーサルの際に多くの児童が成功の体験を繰り返し味わうことが大切で，それが日常場面での実施(定着化)につながる。山本五十六の言葉「してみせて　言って聞かせて　させてみて　ほめてやらねば　人は動かず」はＳＳＴの学び方を示した言葉に通じる。

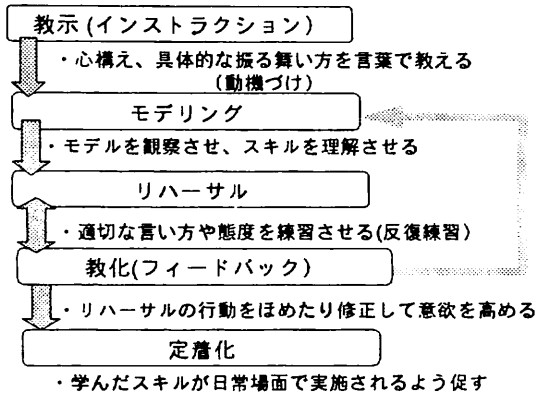



図４　ＳＳＴの基本的な展開

(3) 学校教育にＳＧＥやＳＳＴを取り入れる必要性

河村氏は授業にＳＧＥやＳＳＴを取り入れる必要性を植物の栽培に例えて説明している(図 5)。河村氏によると，児童が地上部分で自己実現の花を咲かせるためには，その児童の根底を支える根の部分が大切である。ところが最近その根としての機能が十分果たせず，小さくなっていると指摘している。地下の根のひ弱さは生活体験不足によるもので人間関係体験の減少と結びつく。つまり、本来なら遊びや関わりの中から自然に学ぶことができた対人関係のスキルやコミュニケーション能力が十分身に付かず、自己実現に向けてうまく成長できない児童が増えているということである。このことは、学校教育で対人関係のスキルやコミュニケーション能力を育てる場を作らざるをえなくなっていることを示している。そこで，生活の技能を身につけ，親密な人間関係を構築することができるＳＧＥやＳＳＴを日々の学習活動の場面に取り入れ，人間関係づくりの力(根の部分) を充実させることが必要であると考えた。根が育てば，児童の自己実現に向けての意欲も高まる。さらに級友や教師からの声かけによる評価を適切にもらうことで，児童の積極的な活動が広がり、そのことで互いに刺激し，助け合い、互いに認め合う集団としての高まりが期待できる。

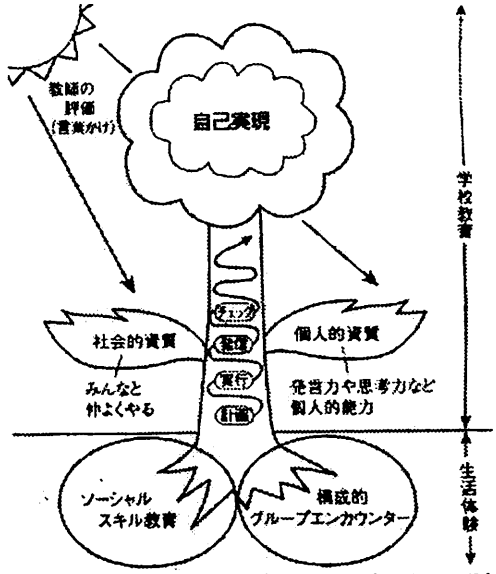



図５　ＳＧＥやＳＳＴを取り入れる必要性

人間関係づくりの充実

(4) 教科にＳＧＥやＳＳＴを活用する意義

現在，学級活動や道徳の領域でＳＧＥやＳＳＴが多く取り入れられ，その有効性も実証されている。しかし，系統的に計画を立て実践を行おうとしても領域だけでは，時数の制限もあり，トッピック的になり児童の日常に定着させることは難しい面があった。

そこで，日々の学校生活の中でも児童と教師，児童同士との関わる時間の多い教科学習の場においてＳＧＥやＳＳＴの手法を積極的に取り入れる。ＳＧＥやＳＳＴを活用することで次のような効果が考えられるからである。

習慣化
親和的な関係
情緒が安定
学び合い発展

①学んだこと・体験したことが日常生活の中で繰り返し練習でき，習慣化されやすい。
②児童同士の関係をより親和的・建設的な関係にすることができる。
③周りの友人から承認されることで，情緒が安定し学習意欲も喚起され、児童の関わり合いが学び合いへと発展することが期待できる。

以上のことからＳＧＥやＳＳＴの手法を意図的・計画的に教科の学習指導に活用することで、互いに認め合う学級集団づくりを行っていく。

**(5) ＳＧＥやＳＳＴを活用した教科指導の工夫**

部分的・効果的に活用

授業には，導入，展開，まとめという一連の基本的な指導過程がある。その指導過程にＳＧＥやＳＳＴの手法を活用していきたい。その手法を部分的または，効果的に活用することで，児童の相互交流や対話のある授業の促進が期待でき，児童間の認め合いが積極的に行われる学級集団ができるのではないかと考える。また，多様な考え方にふれる，練り合いが活性化される，作業活動の協力性が高まる等，授業の質の高まりも期待できる。図６に、指導過程にＳＧＥやＳＳＴの展開を関連づけてみた。それを受けて，表１にタイプ別指導場面でのＳＧＥやＳＳＴの活用例と学習指導に取り入れ可能なエクササイズの例をあげてみた。

指導過程に関連

国語科での工夫

それを踏まえて本研究では，国語科に取り入れて実践を行う。単元の目標と照らし合わせて，より効果的にＳＧＥやＳＳＴの手法を取り入れ児童間の相互交流が盛んになるように学習指導を工夫していく。学習を進める際には，常に受容的・共感的な雰囲気で話し合い活動が行えるように学習のルールを示し，安心して学習に参加できるよう配慮する。また，認め合う活動が自他共に実感できる活動にするために，認め合う方法や人数，ワークシートをその都度工夫していく。話し合う場面においては，自分の気持ちをワークシートにまとめる時間を設定し，安心して自分の意見を言うことができるよう配慮する。友だちのよさを伝え合うことで，自分のよさに気づくことができるようグループ活動を中心に学習を進めていきたい。

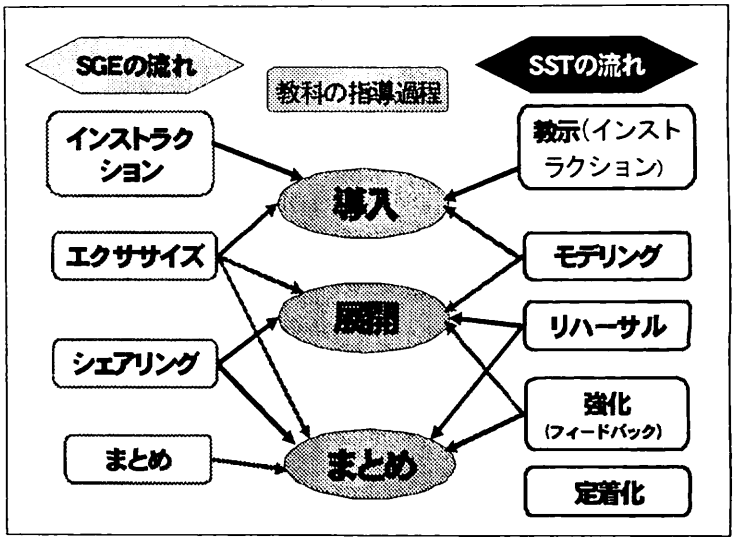



図6　指導過程とＳＧＥやＳＳＴとの関連

**表１　タイプ別指導場面でのＳＧＥやＳＳＴの活用例と学習指導に取り入れ可能なエクササイズの例**

| | | 導 入 | 展 開 | まとめ |
|---|---|---|---|---|
| 問題解決型授業（調べ学習　実験等） | 基本的な指導過程 | 問題提示<br>課題をつかむ | 予想を立てる<br>課題の解決<br>練り合い(話し合い) | 学習のまとめ<br>次時予告 |
| | ＳＳＧＥＴＥを活用（◆★）のや | 緊張の緩和<br>動機づけ<br>グループ決め<br>★ショートエクササイズ | ペアーで予想<br>★ビンゴゲーム<br>課題の解決に迫る<br>◆ロールプレイ<br>★ＫＪ法　★シェアリング | 活動を振り返る<br>★グループ学習のまとめ<br>★ショートエクササイズ<br>★シェアリング |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **相互作用活用型授業**（話し合い活動等） | 基本的な指導過程 | 前時の振り返り（想起）<br>課題の確認 | 課題について話し合い<br>練り合い（発表する） | 学習のまとめ<br>次時予告 |
| | SGE(★)やSST(◆)の活用 | リレーションづくり<br>グループ決め<br>★ショートエクササイズ | 話し合いの促進<br>雰囲気作り<br>◆聴き方名人　★ＫＪ法<br>★ブレーンストーミング<br>★ランキング　★連想ゲーム<br>★インタビュー★模擬討論会<br>★ハンドパワーの輪 | 互いの頑張りを認め合う<br>★がんばったあなたへ<br>★シェアリング |
| **表現創作型授業**（詩・作文・図工・音楽等） | 基本的な指導過程 | 動機づけ<br>めあての確認 | 表現創作活動 | 作品の鑑賞<br>学習のまとめ |
| | SGE(★)やSST(◆)の活用 | ウォーミングアップ<br>動機づけ<br>★ショートエクササイズ<br>★リズムリレー | アイディアを出し合う<br>★ ブレーンストーミング<br>★もしもなれるなら(連想法)<br>協同作業<br>★２人で描こう<br>★みんなでミラー | 自他のよさに気づき，互いを認め合う<br>★シェアリング<br>★ほめほめ賞<br>◆フィードバック<br>★ぱちぱちカード |
| **エクササイズの例** | | ・アウチでよろしく<br>・いろいろ握手<br>・じゃんけんゲーム<br>・サイコロトーキング<br>・４つの窓<br>・みんなでミラー<br>・ランキング<br>・ビンゴ<br>・なんでもバスケット<br>・この指とまれ<br>・○×ゲーム　等 | ・サイコロトーキング<br>・４つの窓<br>・ビンゴ<br>・ロールプレイ<br>・ブレーンストーミング<br>・ＫＪ法　・ランキング<br>・文章完成法<br>・わたしのしたいこと<br>・インタビュー<br>・もしもなれるなら(連想法)<br>・連想ゲーム　等 | ・４つの窓<br>・じゃんけんゲーム<br>・☆いくつ<br>・ぱちぱちカード<br>・いいところさがし<br>・ビンゴ<br>・３つの発見<br>・がんばったあなたへ<br>等 |

## Ⅴ　授業実践

### １　検証授業計画　学級活動・道徳の時間にＳＧＥとＳＳＴを取り入れる（視点１）※４件法で評価

| 検証 | 日時 | ねらい<br>太字（エクササイズ・スキル名） | ○検証の観点　★検証結果<br>（検証方法は振り返りシート） |
|---|---|---|---|
| 1 | 11/27<br>学活 | マナーやルールを守り、仲間と温かい関係をつくる。<br>**なんでもバスケット(エンカウンター)** | ○友達と仲良くなることができたか。<br>★できた(85 %) |
| 2 | 11/30<br>学活 | 聴き方のスキルを身につける。<br>**上手な聴き方のスキル** | ○上手な聴き方のスキルがわかったか。　★わかる(91.4 %) |
| 3 | 12／4<br>道徳 | 自分と似ている，違う友達の存在を知り，お互いの理解を深め合う。**四つの窓(エンカウンター)** | ○友達と同じ所や違うところに気づくことができたか。★できた(84 %) |
| 4 | 12/7<br>学活 | 友達のよさに気づいたり、改めて自分のよさを見つめ直す。**いいところさがし（エンカウンター）** | ①相手のよさを受け入れ②自分のよさに気づくことができたか。<br>★①できた(100 %)②できた（94 %) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | 12/11<br>学活 | あたたかい言葉をかけ合う体験を通しよさを味わう<br>**あたたかい言葉のシャワー（スキル）** | ○これから温かい言葉かけをしていこうと思ったか。★思った（９３％） |
| 6 | 12/14<br>学活 | より多くの友達とふれ合う（助けてあげる・助けてもらう）ことができる。**氷鬼（エンカウンター）** | ○たくさんの友達に声をかけることができたか。★ できた（８０％） |
| 7 | 12/18<br>道徳 | 相手の気持ちを考えて，言葉をかけることの大切さを知る。**ふわふわ言葉とチクチク言葉（エンカウンター）** | ○これからふわふわ言葉を使おうと思ったか。★ 思った（９０％） |

教科にＳＧＥとＳＳＴを取り入れる（視点２）

| 検証回 | 日時 | 学習のねらい<br>エクササイズ名（太字） | ○検証のねらい　・検証方法 |
|---|---|---|---|
| 8<br>国語 | 1/16<br>３時 | 「もしもの国」を想像し、考えを出し合うことができる。**ブレーンストーミング　シェアリング** | ○グループ内で友達の考えを受け入れ、認め合うことができる。<br>・観察記録　振り返りシート |
| 9<br>国語 | 1/17<br>４時 | 自分のもしもの国を決定することができる。<br>**シェアリング** | ○友達が決定した考えを認め，励ますことができる。　・ワークシート |
| 10<br>国語 | 1/23<br>８時 | つなぎ言葉を使って、グループでお話リレーをする。<br>**サイコロリレー** | ○友達の考えを認め合いながら，グループでお話を作ることができる。<br>・振り返りシート |
| 11<br>図工 | 2/5<br>10時 | 友だちと作品を見せ合い，工夫したところ等を話し合うことができる。（版画鑑賞）　**ほめほめ賞** | ○互いのがんばりやよさを認めることができる。　・振り返りシート |
| 12<br>国語 | 2/6<br>12時 | 友だちの作品を読み合い、感想を伝え合うことができる。　**パチパチカード　シェアリング** | ○互いのがんばりやよさを認めることができる。　・観察記録<br>・パチパチカード 振り返りシート |

**２　単元名　「『もしもの国』に行ってみよう」　（国語科　3年下 東京書籍）**

**３　単元について**

(1) 教材観（省略）　(2) 児童観（省略）

(3) 指導観（前半部分省略）

本単元では，自作のお話を作るためにそれぞれの「もしも・・・」を出し合い，想像する楽しさをグループで体験させ，その後，自分のお話作りのヒントにさせる。友達同士でヒントをもらう，与える活動の中に互いにほめ合う要素がたくさんあり，児童の意欲をかき立ててくれると考える。また，グループやペアー間にインタビューを取り入れることで，お話の骨組み作り（設計図）やアイディアの出し合いがスムーズに行え，楽しんでお話作りに取り組み、児童間のリレーションも高まることだと考える。

「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の文作りの基本や接続語の使い方をゲームやサイコロリレーに取り入れ，グループで教え合い楽しく学び合える活動に発展させていきたい。また，友達の作品を読み合い，感想を伝え合う活動に十分時間を取ることで自他のがんばりに気づき，互いをほめ合うことのできる受容的な雰囲気を作っていきたい。

**４　単元の目標**

**(1) 単元の目標**

① 想像を広げて楽しく文章を書く。

② 想像したことを書いた文章を読んで、感想を分かりやすく話す。

**(2) 観点別評価規準**（省略）

**５　指導・評価計画**

| 配時 | ・教科のねらい<br>★検証のねらい | 主な学習活動とエクササイズ名（太字） | ○ 評価規準<br>★検証の観点　（検証方法） |
|---|---|---|---|
| 1 | ・学習計画を立てる。 | ・教材文を読み、文集作りの計画を立てる。<br>・漢字の学習をする。 | ○想像したことを文章にすることに興味を持つ。（関心・意欲・態度） |
| 2 | ・想像することの楽しさを味わう。 | ・文作りゲームを行う。<br>「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の組み合わせで話が面白くなることを体験する。 | ○「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を使い文章を書いている。（書） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3<br>本時<br>検証<br>⑧ | ・「もしもの国」を想像し考えを出し合う。<br>★友達の考えを受け入れ、認め合う。 | ・グループでそれぞれの「もしも・・」を出し合い、発表しほめ合う。**ブレーンストーミング**<br>**グループシェアリング** | ○想像したことを書いている。(書)<br>○自分の考えをはっきりと伝えたり、友だちの意見を聞くことができる。(話聞)<br>★友だちの考えを聞くことができたか。<br>★安心して意見を言うことができたか。<br>★友だちの考えや互いのよさを認めることができたか。<br>(観察記録)(振り返りシート)<br>★互いの考えやよさを認めることができたか。(ワークシート) |
| 4<br>検証<br>⑨ | ・自分のもしもの国を決定する。<br>★友だちが決定した考えを認め，励ます。 | ・前時に出し合った「もしもの国」を参考に自分のもしもの国を決定する。**シェアリング** | |
| 5 | ・お話の設計図を作る | ・設計図の作り方を学ぶ。<br>(4コマ漫画、既習教材を活用) | ○書こうとすることの中心を明確にし，話の展開を考えながら設計図を書いている。(書) |
| 6 | | ・4つの場面に分けて設計図を作る。 **インタビュー** | |
| 7 | ・想像した「もしもの国」を書く。<br>★友達の考えを認め合いながら，グループでお話を作る。 | ・つなぎ言葉と会話文の使い方を学習する。 | ○接続詞を適切に使って話の続きを書いている。(書)<br>★友だちの考えを聞くことができたか。。(振り返りシート) |
| 8<br>検証<br>⑩ | | ・つなぎ言葉を使って、グループでお話リレーをする。<br>**サイコロリレー** | |
| 9 | | ・お話作りをする。<br>※困った時には、ペアーで**インタビュー**を行い、話作りの援助を互いに行うよう声かけする。 | ○想像したことを，楽しんで表現しようとしている。(関心・意欲・態度) |
| 10 | ・書いた文章を読んで、推敲、清書する。 | ・ペアーで設計図と文章を照らし合わせてアドバイスし合う。<br>**フィードバック** | ○自分や友達が書いた文章を読み直し，更に良くなるように書き直している。(書) |
| 11 | | ・清書をする。(文集づくり) | |
| 12<br>検証<br>⑫ | ・作品を読み合い、感想を伝え合う。<br>★互いのがんばりやよさを認め合う。 | ・文章のよいところ、工夫しているところを見つけほめ合う。<br>**パチパチカード**<br>**シェアリング** | ○感想を出し合うことができる。(話.聞)<br>★友だちの考えを聞くことができたか。<br>★安心して意見を言うことができたか。<br>★互いのよさを認めることができたか。<br>(パチパチカード)(振り返りシート) |

## 6　本時の学習

**(1) 本時のねらい**

① 「もしもの国」を想像し，グループで考えを出し合うことができる。

② グループ内で友達の考えを受け入れ，認め合うことができる。(検証のねらい)

**(2) 本時の授業視点**

① ＳＧＥやＳＳＴの手法のひとつに取り入れられているブレーンストーミングや聴き方のスキルを活用することで，安心して考えを出し合い，聞き合うことができたか。

② ブレーンストーミングでの話し合いや授業のまとめにグループでのシェアリングを取り入れることで，友達の考えや互いのよさを認め合うことができたか。

**(3) 準備**（省略）

**(4) 本時の展開**

| 過程 | 学習活動 | 教師の支援 | ★授業仮説の検証<br>□本時の評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | 1　絵本の展開を予想する。<br>2　前時の学習を振りかえる。<br>3　学習のめあてを確認する。<br>① 「もしもの国」を想像し，グループで考えを発表しよう。<br>② 友達の想像した「もしもの国」に感想を伝えよう。 | ・絵本の始めだけを読み，その後を予想させる。<br>・教科書にある4つのもしもの国を振り返り，本時のめあてに結びつける。<br>・めあてをしっかり確認する。<br>・すごいと思ったら、感嘆語や拍手で表現するように伝える。 | |
| 展開 | 4　自分の「もしもの国」を想像する。<br>5　グループで「もしもの国」を出し合い，互いに感想を伝え合う。(ブレーンストーミング) | ・想像カードに「もしも・・・」を書かせる。(もしも だれが ～だったら どうしたい )<br>・司会をたて，話し合いを進行させる。<br>・聴き方名人を意識させる。<br>・司会の進行や発表に困っている児童がいる場合はグループで教え合うように声かけを行う。 | □想像したことを書いている。<br>□自分の考えをはっきりと伝えたり、友だちの意見を聞くことができる。(話す・聞く)<br>★①考えを出し合い， |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 30分 | | ・一人一人の発表が終わった後に拍手を送り，友達の「もしも国」で面白い所，すごい、すてきと思った所を認め合わせる。<br>・話し合いが早く終わったグループ対しては、臨機応変に対応する。 | 聞き合うことができたか。<br>★②友達の考えを認めることができたか。（観察記録・振り返りシート） |
| まとめ 10分 | 6　学習のめあてをふり返る。（振り返りシート）<br>7　振り返りシート記入後，グループ，全体で感想を言い合う。（シェアリング）<br>8　次時予告をする。 | ・各グループでいくつ「もしもの国」を想像したか発表させ，そのがんばりを讃える。（フィードバック）<br>・友達からほめられた時の気持ちや，友達のもしもの国で感心したところ、友達のよいところに焦点をあて話し合わせる。<br>・全体で想像したもしもの国をヒントに次時は自分のもしもの国を決定することを伝える。 | ★②友達の考えや互いのよさを認めることができたか。（振り返りシート） |

## 7　授業視点の検証

授業の視点①②について，児童の振り返りシート（自己評価・感想）と観察者（教師6人）の評価をもとに考察する。表２は，学級全体の評価をまとめたものである。

表２　児童の自己評価と観察者による学級全体の評価　　学級人数35人

| 検証の観点 | 評価の項目 | 児童の自己評価（上段）観察者の評価（下段）4 | 3 | 2 | 1 | 児童の評価 | 観察者の評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 考え合いを出しきれたか。 | ①友だちの考えを聞くことができたか。 | よくできた<br>２６人 | できた<br>８人 | あまりできなかった<br>１人 | できなかった<br>０人 | 97 %<br>A | 71 %<br>B |
| | | 友だちの考えを聞くことができる<br>２２人 | | 集中力にやや欠ける<br>８人 | 聞くことができない<br>１人 | | |
| | ②自分の考えを発表することができたか。 | よくできた<br>２０人 | できた<br>１１人 | 自信があまりなかった<br>３人 | できなかった<br>１人 | 88 %<br>A | 81 %<br>A |
| | | 発表することができる<br>２５人 | | 発表するが自信がなさそう<br>４人 | 発表できない<br>２人 | | |
| 友だちの考えを聞き，認め合うことができたか。 | ③友だちの考えを認めることができたか。 | よくできた<br>２０人 | できた<br>１０人 | あまりできなかった<br>３人 | できなかった<br>２人 | 85 %<br>A | 63 %<br>B |
| | | 友だちの考えを認めることができる<br>１７人 | | あまりできない<br>６人 | 認めることができない<br>４人 | | |
| | ④友だちのよさを見つけたか。 | たくさん見つけた<br>１９人 | 見つけた<br>１１人 | あまりできなかった<br>４人 | できなかった<br>１人 | 85 %<br>A | |
| | ⑤自分のよさを見つけたか。 | たくさん見つけた<br>１４人 | 見つけた<br>１３人 | あまりできなかった<br>６人 | できなかった<br>２人 | 77 %<br>B | |

評価基準　３・４の合計　A・・・80％以上　B・・・79～50％　C・・・49％以下

**スキルが不十分**

**(1)　ＳＧＥやＳＳＴの手法のひとつに取り入れられているブレーンストーミングや聴き方のスキルを活用することで安心して考えを出し合い，聞き合うことができたか。**

自己評価では「①友だちの考えを聞くことができたか」に「できた」以上の児童が97％(34人)「②自分の考えを発表することができたか」に「できた」以上の児童が88％(31人）いた。また，「前より上手に発表ができてよかった」「始めはあまり自信がなかったけど，最後まで発表できてよかった」等，児童の感想からブレーンストーミングを取り入れたことで，自分の考えが否定されない安心したグループの場で，色々な「もしもの国」を想像し，自信を持って発表できた様子がうかがえる。しかし，観察者（教師）からは，「ほめてもらっているのに聞いていない児童がいた」等，聞く・話すルールの不十分さを指摘された。このことは，教科学習の場で聴き方名人のスキルが十分活かされていないことを示し，今後の課題となった。聴き方名人のスキルの意識づけを行うために，次時の授業から児童に聞き方の具体的な行動（方法）を振り返りシートで細かく評価させ，自覚を促していきたい。

(2) **ブレーンストーミングでの話し合いや授業のまとめにグループでのシェアリングを取り入れることで，友達の考えや互いのよさを認め合うことができたか。**

各自の想像カードをブレーンストーミングで出し合った後，グループで話し合ったことで85％(30人）の児童が「③友だちの考えを認めてあげることができた」と肯定的な自己評価をしている。感想からも，友だちの様々な想像カードに対して「・・・なところがすごいと思った」等，自分が感じた気持ちを付け加えて感想を書いている児童が多かった（表3)。

**互いのよさに気づく児童**

「④⑤互いのよさを認め合うことができたか」の項目に，友だちのよさを見つけることができた児童が85％(30人)，自分のよさに気づいた児童が77％(27人）いた。児童の感想からも，自分や友だちの頑張った点や友だちの想像カードからその人のよさに気づいた等の記述もあり（表6)，互いのよさに気づく児童の姿がみられた。また，「友だちにほめられて気持ちがすっきりした」「友だちからほめられたら，ちょっとはずかしいけどうれしい」と友だちからほめられたことによって児童が気持ちよく学習に参加できた様子もうかがえた。

以上のことから，ブレーンストーミングでの話し合い活動やまとめにシェアリングを取り入れたことで受容的な雰囲気の中で学習が進み，互いのよさに気づき，認め合うことができたといえる。本時は国語の教科指導のまだ3時(検証8時）である。今後課題となった点の手だてを考えながら，検証を行い児童の変容を図りたい。

**表3　児童の感想（一部抜粋)**

- Aさんの子犬になって足がはやくなりたいを聞いて，ぼくも勝負したくなった。
- Bさんは，テレビに出てくる人物を自分に変えていたのでおもしろいと思いました。
- みんなは2枚しか想像カードを書いていなかったけど，ぼくは5枚書くことができた。でも，友だちの意見にはいい考えがいっぱいあった。
- 私は友だちにほめられて，自分の想像カードのおもしろいところが分かりました。

## Ⅵ　研究の結果と考察

### 1　人間関係づくりのルールや児童間のリレーションを確立するために，学級活動や道徳の指導，朝の会で，意図的・計画的にSGEやSSTのプログラムの実施

研究の考察はQ－Uアンケート，ソーシャルスキル尺度，振り返りシートを基に行った。

(1) **人間関係づくりのスキルが身についたか。**

図7は，検証授業2時「上手な聴き方のスキル」5時「あたたかい言葉かけのスキル」の振り返りシートの自己評価をまめたものである。「スキルのよさがわかりましたか」の問いに9割以上の児童が肯定的な評価をしている。図8は，ソーシャルスキル尺度の結果である（30項目から15項目にしぼり，配慮のスキル40点満点，かかわりのスキル20点満点で行った)。「配慮のスキル」が34.7点から35.9点へ平均点が伸び(p<.05)，「かかわりのスキル」が16.2点から18点へ上昇(p<. 01)した。両スキルともt検定を行った結果，有意差が見られた。

**両スキルの上昇**

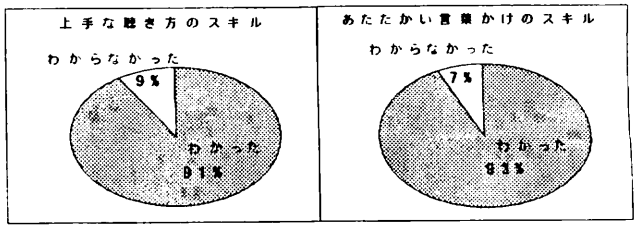



**図7　児童の自己評価**（ふり返りシート）

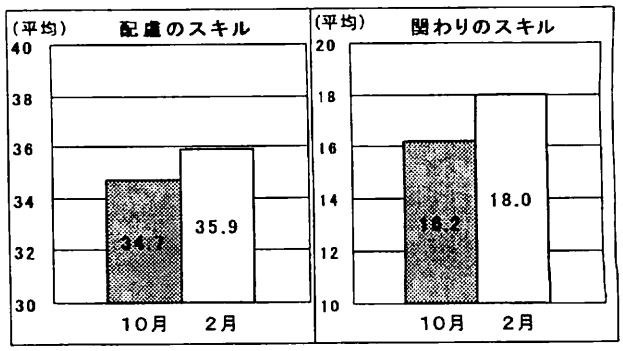



**図8　ソーシャルスキル尺度の変化**

以上のことから，児童は学級集団での関わり合いの中で少しずつ人間関係づくりの技能が身につき始めてきたといえる。しかし，定着していない児童もおり，継続した支援が必要である。

**(2) 児童間にリレーションが確立されたか。**

図９はＱ－Ｕアンケートの学校生活意欲に関する結果である。「友達関係」は9.4 から10.5 へ(全国平均 9.7)「学級の雰囲気」は，9.3 から10.3 へ（全国平均 10.2）と高まりがみられた。図 10-1 は，Ｑ－Ｕアンケート項目「学級は仲良く協力していますか」「友達は励ましてくれますか」の結果である。２項目とも事前の 57 %から事後 80 %，事前 60 %から事後 88 %と上昇が見られた。図 10-2 は，にこにこアンケート「仲良しの友達が増えましたか」の結果である。事前 68 %事後 94 %と上昇が見られた。

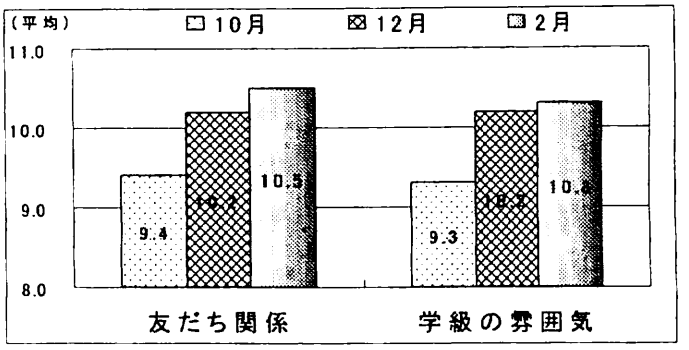



図９　学校生活意欲（Ｑ－Ｕアンケート）

**交友関係の広がり**

**協力し合える雰囲気**

以上のことから，児童の交友関係に広がりが見られ，学級内で協力し合える雰囲気ができ始めたことは，児童間の温かな交流が盛んになりリレーションが高まったと捉えることができる。

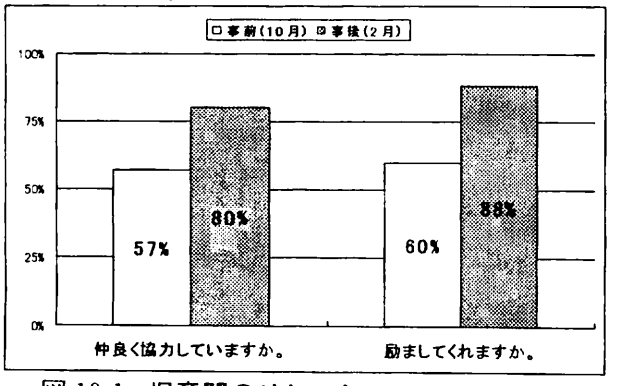



図 10-1　児童間のリレーション(Ｑ－Ｕアンケート)

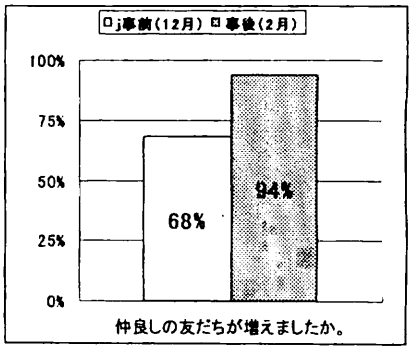



図 10-2 児童間のリレーション
(にこにこアンケート)

上記(1)(2)の結果，意図的・計画的にＳＧＥやＳＳＴのプログラムを実施することは，人間関係づくりのルールや児童間のリレーションを高めるために効果があった。

## ２　互いに認め合う学級集団づくりをするために，１での実践をもとにして、教科指導の中にＳＧＥやＳＳＴの手法を活用した学習指導の工夫

研究の考察は，Ｑ－Ｕアンケート，にこにこアンケートとふり返りシートをもとに行う。また，毎時のふり返りシートの自己評価はそれぞれ４件法に変換して行った。

**(1) 友達の考えや意見を聞こうとすることができたか。**

図 11 は，国語３時(検証８時）以降に児童に聴き方名人を意識づけるために行ったチェック表の結果である。(満点６点)。客観的な自己評価が難しい３年生でも細かく聴き方名人の姿勢をチェックさせることで少しずつ意識の高まりが見られ，2.1 点上昇がみられた。ｔ検定を行った結果有意差も見られた

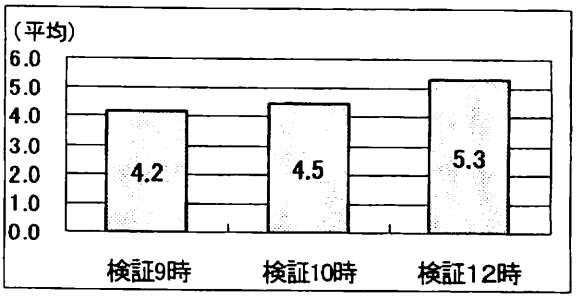



図11　聴き方名人チェック表

（p＜.01)。図 12 は，「友だちの考えを聞くことができたか」について国語3時（検証 8 時）と国語 12 時(検証 12 時）の児童と観察者の結果である。児童の評価は，ふり返りシートを基に行った。児童の評価で 0.1 の下降，観察者の評価で 0.07 の上昇が見られた。児童の評価が下がったのは，検証 8 時後に聴き方名人の具体的な行動を自分自身でチェックさせたことで，自己評価が厳しくなったからだと考えられる。図 13 は，「友だちの話を最後まで聞いていますか」の結果である。0.1 の若干の上昇はあったものの継続指導の必要性を強く感じた。

話を聞いている事前3.5
→事後3.6

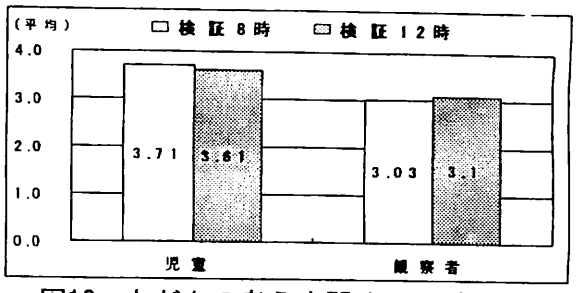


図12　友だちの考えを聞くことができたか

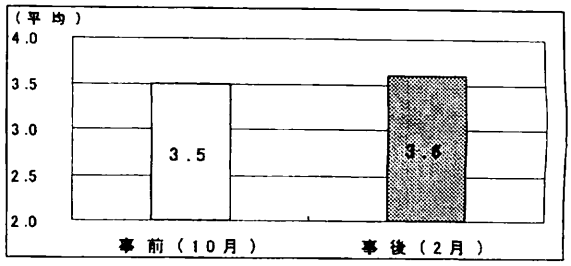


図13　話を最後まできいていますか

以上のことから，短時間で聞く姿勢を身につけさせることは難しいが，聴き方名人のスキルを児童に意識させる工夫をすることで，友だちの話を聞こうとする児童の意識に変容が見られた。スキルが定着するまで，繰り返し・粘り強い指導が必要である。

(2) 互いのよさを受け入れることができたか。

図 14 は，国語 3 時（検証 8 時）と国語 12 時（検証 12 時）の「よさを見つけることができたか」の児童のふり返りシートからの結果である。共に上昇傾向が見られ，t 検定を行った結果有意差も見られた(p＜.05)。

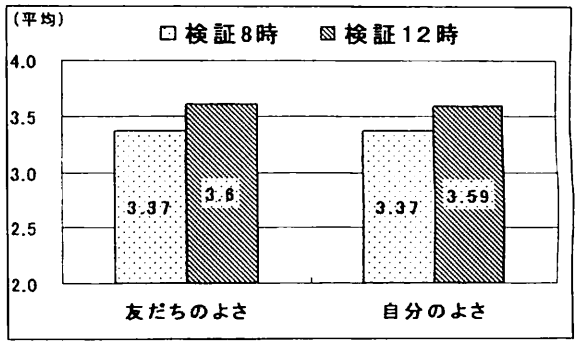


図14　よさを見つけることができたか

表４は，学習後の児童の感想である。意図的に認め合う活動を授業の中に取り入れたことで，友だちのよさを見つけ伝え合い，そのことで自分のよさに気づいた児童が多数いた。実際に，作品づくりでは，61 %(22 名)の児童が友だちの想像カードをヒントに自分の「もしもの国」を決定し，世界にひとつしかない自分なりの作品を仕上げることができた。図 15 は，「クラスの人からすごいと言われることがあるか」のQ－Uアンケートの結果である。17 %の上昇が見られたことから，相互に認め合いが行われていたことが読み取れる。

すごいと言われたこと
事前69%
→事後86%

相互の認め合い

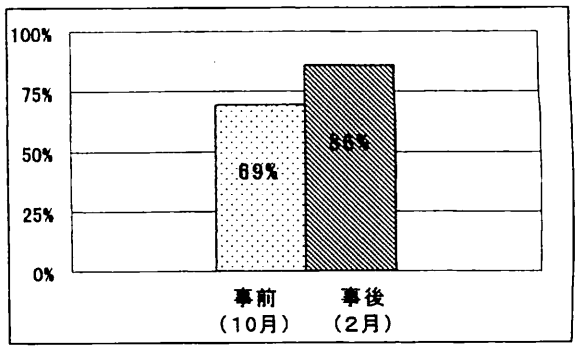


図15　すごいと言われたことがあるか

以上のことから，ＳＧＥやＳＳＴの手法である自己や他者への理解を深める活動を教科学習に取り入れることは，お互いのよさを受け入れ認め合うことに効果があったといえる。

表４　児童の感想（一部抜粋）

| |
|---|
| ・「おかしやあめ玉を上手に書いていますね」など友だちが私のがんばりを発見してくれ，励ましの言葉になりました。 |

・パチパチカードを読んで，私の作品には味付けがされてすてきな所がいっぱいあること に気づきました。心がぽかぽかしました。
・絵が上手と書いていたので，自分に自信がつきました。

(3) 安心して意見を言うことができたか。

国語３時(検証８時) 以降に，児童が安心してグループ内での話し合い活動が行えるように，チェック表（満点５）を作成した。 図 16 は，その結果である。自分に関する３項目，受容的な雰囲気を意識させる２項目を細かくチェックさせたことで，国語４時（検証９時）と国語 12 時(検証 12 時)で，意識の高まりが見られた。ｔ検定を行った結果，有意差も見られた（ｐ<.01)。図 17 は，「安心して自分の考えを発表することができたか」について国語３時（検証８時）と国語 12 時（検証 12 時）の児童と観察者の結果である。児童の評価と観察者の評価で若干の上昇が見られた。図 18 は，「安心して自分の考えを発表することができましたか」にこにこアンケートの結果である。事前の平均 2.9 から事後の平均 3.4 への上昇がみられ，ｔ検定を行った結果，有意差も見られた(ｐ<.01)。表５は児童の感想である。受容的な雰囲気の中で話し合い活動が行われたことで，児童が自信を持って自分の考えを発言することができた様子がうかがえる。

以上のことから，ＳＧＥやＳＳＴを活用することで，受容的な雰囲気の中でグループ，ペアー学習が進み，一人一人の児童が安心して自分の考えを述べ，少しずつ自信がつきはじめてきたといえる。

考えを発表すること
事前2.9
→事後3.4

受容的な雰囲気

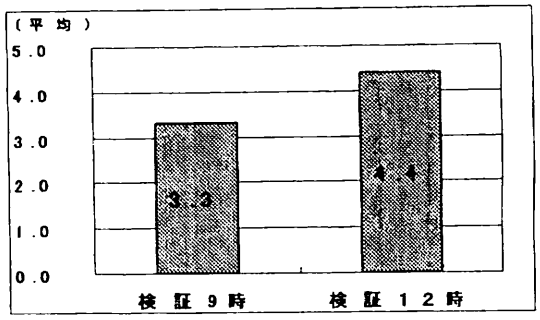


図16　安心発表チェック表

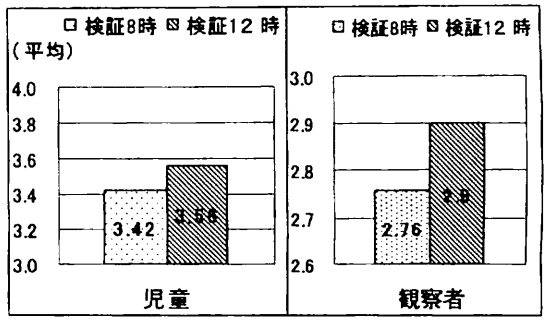


図17　安心して考えを発表できたか

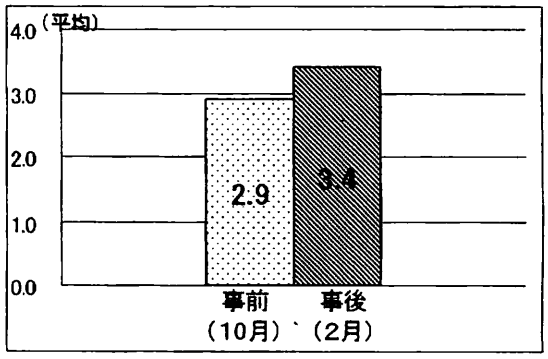


図18　安心して考えを発表することができたか

表５　児童の感想（一部抜粋）

・友だちが私の発表を真剣に聞いてくれたり，最後に拍手をしてくれてとてもうれしかったです。
・私は発表する時，はずかしかったのでうまく言えないと思ったけど，心からがんばると思ったからちゃんと言えました。
・私は，発表が苦手でした。でも今日のお勉強で，発表が上手にできたことがうれしかったです。

上記の(1)(2)(3)の結果から，教科指導の中にＳＧＥやＳＳＴの手法を活用した学習指導の工夫をすることは，互いに認め合う学級集団づくりの工夫のひとつとして効果があったといえる。

## ３　教科・領域の指導にＳＧＥやＳＳＴを活用することは、互いに認め合う学級集団づくりに有効であったか。

(1) Ｑ－Ｕアンケートから

図 19 は，Ｑ－Ｕアンケートの結果である。学級生活満足群に属する児童が 42 %から

学級満足群
→増加
その他→減少

63%に増え，その他の群で減少がみられた。特に承認得点が低い群（非承認群＋学級生活不満足群）に属する児童が事前48%から事後28%に減少していることから，学級集団内でお互いを認め合う雰囲気ができ，その中で学級生活に満足感を感じる児童が増えたことが伺える。しかし，学級生活不満足群に属する児童の割合ががわずかな減少だったことから，それらの児童への積極的な働きかけが今後必要だと思われる。

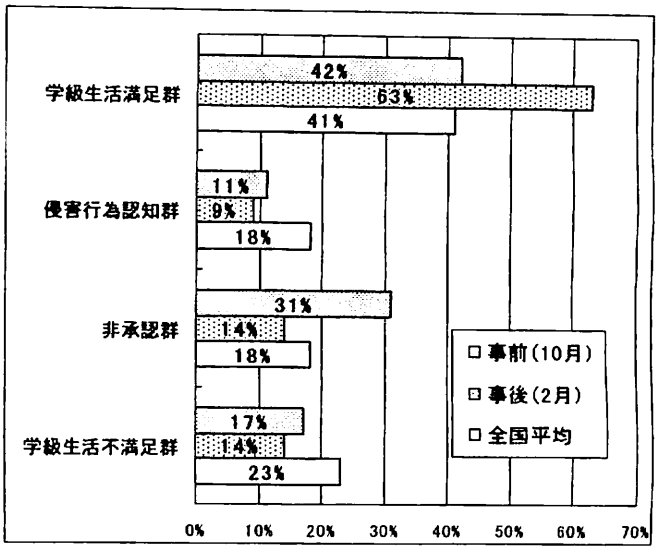



図19　学校満足度尺度

(2) 研究の考察１，２から

本研究では，互いに認め合う学級集団の姿を①友だちの考えや意見を聞くことができること②互いのよさや違いを受け入れることができること③安心して自分らしさを発揮することができることと捉え研究を進めてきた。これまで述べてきたように教科・領域の指導にＳＧＥやＳＳＴを活用した授業実践を行ったことで，学級の中に以前よりは上記の①②③の姿が見られるようになり，「互いに認め合う学級集団づくり」に効果があったといえる。しかし，学級生活に満足感を得られない児童への支援の仕方やスキル学習等の継続的な実施等，重要な課題も見つかった。

## Ⅶ　研究の成果と今後の課題

**1　研究の成果**

(1)　ＳＧＥやＳＳＴを取り入れた授業を行うことで，人間関係づくりの技能が身につき，児童間のリレーションが高まり，学級集団がまとまり始めた(Ⅵ－１)。

(2)　教科指導の中に意図的・計画的にＳＧＥやＳＳＴの手法を活用することで，受容的な雰囲気の中でグループ学習が進み，自分のよさに気づき，他者を認め合う姿が学級集団の中に見られ始めた（Ⅵ－２)。

(3)　教科・領域の中にＳＧＥやＳＳＴを取り入れたことで，児童間の相互交流が図られ，認め合いが積極的に行われる学級集団に高まりつつある（Ⅵ－３)。

**2　今後の課題**

(1)　ＳＧＥやＳＳＴの学習後，定着を図るための指導の工夫(Ⅵ－１)。

(2)　ＳＧＥやＳＳＴの手法を他教科へ取り入れたり，継続的な取り組みができるよう年間指導計画への位置づけ(Ⅵ－２)。

(3)　学級に満足していない児童への支援の工夫（個別指導の充実）（Ⅵ－３)。

**〈主な参考文献〉**


| | | | |
|---|---|---|---|
| 河村茂雄編著 | 『グループ体験によるタイプ別学級育成プログラム』 | 図書文化 | 2001 年 |
| 國分康孝監修 | 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』 | 図書文化 | 1999 年 |
| 河村茂雄編集 | 『授業スキル　小学校編』 | 図書文化 | 2004 年 |
| 國分康孝総編集 | 『構成的グループエンカウンター事典』 | 図書文化 | 2004 年 |
| 河村茂雄企画編集 | 『学級経営　スーパーバイズ・ガイド』 | 図書文化 | 2004 年 |